

**産業構造審議会グリーンイノベーションプロジェクト部会**  
**グリーン電力の普及促進等分野ワーキンググループ（第7回） 議事概要**

- 日時：令和5年9月12日（火）11時00分～12時00分
- 場所：オンライン（Webex）
- 出席者：（委員）高村座長、植田委員、志村委員、鈴木委員、関根委員、竹内委員  
藤田委員、松井委員、松本委員  
（オブザーバー）京都高度技術研究所 酒井副所長、名古屋大 成瀬教授、  
NEDO 弓取理事
- 議題：個別プロジェクトに関する研究開発・社会実装計画（案）について  
「廃棄物・資源循環分野におけるカーボンニュートラル実現」
- 議事概要：  
プロジェクト担当課より、資料3、資料4に基づき説明があり、議論が行われた。委員等からの主な意見等は以下のとおり。
  - 外部環境の変化を見据えた加速なども考慮しつつ成果を期待する。技術開発から大規模実証、商用化へと進んでほしい。  
→成果につなげることをしっかり意識して進めるとともに、ステージゲートのタイミングなどは柔軟に設定していく。
  - 本プロジェクトで技術として確立した後の社会実装について地方自治体と連携して進めてほしい。アジア市場を見据えて将来性も加味して検討を進めてほしい。  
→出口として国内のみならず海外でも実装することが重要と認識。研究開発・社会実装計画案にも国内外のマーケットニーズ等を把握しながら進めて行く旨を記載している。
  - 炉の性能が廃棄物の性状に依存するという点で、性状のばらつきをどこまで加味した目標値になっているのか？  
→廃棄物のばらつきに関するデータは基礎データとして重要と認識。
  - 酸素富化燃焼における酸素の調達について、水電解など他分野で発生した酸素の利用といった考え方もある。  
→新しい酸素の生成法について本事業で取り組む予定はないが、利用については全体最適という意味でも念頭においておきたい。
  - 熱分解処理で生成したガスの用途について、エタノール以外の出口の可能性も視野に入れておく必要がある。  
→エタノール以外の可能性も検討していく。例えばガス化状態での供給もあり得る。
  - 廃棄物関連は政策的に大規模集中型を進めてきたところ、分散型技術も進めて行くべき。分散型はスタートアップの活躍余地が大きくこれらを巻き込んでいく点は重要。  
→スタートアップのポテンシャルは重要で活用していきたい。コンソーシアムを組んでの提案などあり得る。取り入れるべき技術は取り入れていきたい。

- 海外展開をいかに早く進められるかが重要。アジア展開を期待したい。  
→二国間クレジット制度等を活用しながら対応していきたい。
- 研究開発項目 2 はチャレンジングである。安全性の確保と長期運転が重要。  
→他のプロジェクトより一層高い意識で対応したい。
- 将来的に日本でも国土から離れた場所への CO<sub>2</sub> 貯蔵を考えているのか？  
→環境省で現在進めているプロジェクトはない。他方、経産省で先進的 CCS 事業に関する公募が行われ採択が決まっていると認識。うち 2 つは海外への展開を念頭に置いたプロジェクトである。CCS に関しても動向を把握して対応する。
- 社会的理解を深めるといふ観点からは、新しい技術を導入した廃棄物処理施設の見学といった工夫もある。そのような取組の実施に関する判断は事業者によるのか？  
→重要な観点である。GI 基金の本プロジェクトの中では（周辺住民にとってのメリットとなるような）電気・熱の供給等も含めての対応というのは対象としていないが、社会実装する際には、処理の方法や有用性も含めてアウトリーチは非常に重要である。先行事例をしっかりと横展開していき、普及啓発していきたい。
- 今後産業としての動脈・静脈連携が必要となる。今回メインの対象は一般廃棄物だと思うが、産業廃棄物への展開は可能か？  
→今回の技術は一般廃棄物/産業廃棄物に関わらず対応できると考えている。動静脈連携については中央環境審議会循環型社会部会のもとに設置されている小委員会で議論中。有機的につなぐため引き続き検討したい。
- 物質収支とともにエネルギー収支も考えながら開発を進めて頂きたい。  
→エネルギー収支の視点も重要と認識。プロジェクトを進捗管理する中で対応していきたい。

以上

（お問合せ先）

産業技術環境局 エネルギー・環境イノベーション戦略室

電 話：03-3501-1733

F A X：03-3501-7697